

「師友」



あらかき・ひろゆき / 1952年長崎県北松浦郡生まれ、佐賀大理工学部土木工学科を76年に卒業、78年に同大理工学部の助手、助教を経て01年に教授。10年から佐賀大低平地沿岸海域研究センターの教授を務める。写真やベース演奏、草刈りなどの趣味豊富。

はら・ゆたか / 1949年広島市生まれ。佐賀大大学院工学系研究科を卒業、同大理工学部土木工学科の助手を72年から務め75年、同社に入社。常務、専務を経て01年から現職。愛犬との散歩中にアイデアがひらめき、生まれた特許は30件にのぼる。

荒木 背の高い先生がいるな。原さんが助手、私が佐賀大2年の最初に会った印象ですね。確か、講義のなかに土質実験というのがあつて、その時、指導してもらいましたよね。

原 学生40人くらいいたかな。講師陣もだいたい20代後半で、学生と年があまりかわらないから、仲が良かった。ソフトボールしたり、よく飲みにもいった。なかには私と同じ年の学生もいて…(笑)。

荒木 いい意味で、縦も横もなかったですね。原さんととは別々の研究室でしたけど面対見がいいから、今でもですけど、よくおつてもらいかわいがつてもらった。先生といより兄貴分みたいな存在。

原 「マサ土と粘性土の不飽和土の力学的特性に関する研究」の論文も書いた3年間の助手の経験は会社に入つて、生かされた。私が「土」を専門にする一方、荒木先生は水質浄化など、「水」を専門とする道を選んだ。そこから空白期間があつたけど、たまには会つたよね。荒木 そうそう。私が助手になつても、ぶらつきで、食事によくおい、といい、よく飲んだじゃないですか。気軽に声をかけてくれて。

原 しばらくした12年くらい前かな。うちで開発した多目的環境材料「ミラクルソル」に水質浄化の効果を調査依頼して、そこから技術指導してもらい、最終的に技術顧問にもなつてもらった。

荒木 「これ、水質浄化に使えるぞ」というので、何かなと思つたけど、直感的にこれは使えるな。と、効果は予想以上で、それを検証、応用するための佐大として連携し国からの補助事業を4件手がけた。2年間で新たな環境素材を開発しないといけない補助事業を1年でやつてしまったから、予算の半分を返しましたね。あれは痛快でした。

原 それだけ連携が密だった。国からのヒヤリングに備えて、2人で役割分担して説明したり、コアな部分から細かい部分を詰める繰り返し。2人とも学生時代ラガーマンだったのでチームプレーを心得、息ぴったり。信頼関係の上で成り立つ、真の「産学連携」と思う。安心して、何でも応えてくれる「右腕」だと思つている。

荒木 光栄です。原さんは寡黙だけど、仕事の話になると雄弁。すぐ熱くなる。これからもがっちりスクラムを組んでいきましょう。